科学技術振興機構報　第１４７０号

令 和 ２ 年 １ １ 月 ２ ４ 日

東京都千代田区四番町５番地３
科学技術振興機構（ＪＳＴ）
Tel：03-5214-8404（広報課）
URL https://www.jst.go.jp

戦略的創造研究推進事業における
２０２０年度第２期新規研究課題の決定について

ＪＳＴ（理事長　濵口 道成）は、戦略的創造研究推進事業（「ＣＲＥＳＴ」、「さきがけ」および「ＡＣＴ－Ｘ」）の２０２０年度第２期研究提案募集における新規採択研究代表者・研究者および研究課題を決定しました。

本事業は、社会・経済の変革をもたらす科学技術イノベーションを生み出す、新たな科学知識に基づく革新的技術のシーズを創出することを目的とした基礎研究を推進します。国（文部科学省）が戦略目標を設定し、そのもとに推進すべき研究領域と研究領域の責任者である研究総括（プログラムオフィサー）をＪＳＴが定めます。研究提案は研究領域ごとに募集し、研究総括が領域アドバイザーらの協力を得ながら選考します。研究領域のもと、「ＣＲＥＳＴ」では選定された研究代表者が研究チームを編成して、「さきがけ」では研究者が個人で研究を推進します。「ＡＣＴ－Ｘ」は、優れた若手研究者を見いだして育成するプログラムで、研究総括および領域アドバイザーの助言、指導のもと、若手研究者の個人研究を支援するものです。

２０２０年度研究提案募集（第２期）として、「ＣＲＥＳＴ」の４研究領域、「さきがけ」の５研究領域および「ＡＣＴ－Ｘ」の２研究領域において募集した結果、産学官各界の研究者から「ＣＲＥＳＴ」は２７５件、「さきがけ」は７２２件、「ＡＣＴ－Ｘ」は１６１件の応募がありました（別紙）。

募集締め切り後、書類選考と面接選考（事前評価）を実施し、「ＣＲＥＳＴ」は２３件、「さきがけ」は６２件、「ＡＣＴ－Ｘ」は４５件の研究課題とその研究代表者・研究者を採択しました。

詳細は下記ホームページを参照してください。

ＣＲＥＳＴホームページ：　https://www.jst.go.jp/kisoken/crest/
さきがけホームページ　：　https://www.jst.go.jp/kisoken/presto/
ＡＣＴ－Ｘホームページ：　https://www.jst.go.jp/kisoken/act-x/

＜添付資料＞

別　紙：２０２０年度第２期 応募数および採択数
参考１：研究総括
参考２：選考の観点

＜お問い合わせ先＞

科学技術振興機構 戦略研究推進部
〒102-0076 東京都千代田区五番町７ Ｋ’ｓ五番町
舘澤 博子（タテサワ ヒロコ）
E-mail：rp-info[at]jst.go.jp

別紙

２０２０年度第２期 応募数および採択数

＜研究領域別＞

ＣＲＥＳＴ

発足年度	研究領域	応募数	採択数	採択率
２０２０年度	原子・分子の自在配列・配向技術と分子システム機能	113	6	5.3%
	情報担体を活用した集積デバイス・システム	41	6	14.6%
	信頼されるＡＩシステムを支える基盤技術	41	5	12.2%
	細胞内現象の時空間ダイナミクス	80	6	7.5%
合　　計		275	23	8.4%

さきがけ

発足年度	研究領域	応募数	採択数	採択率
２０２０年度	原子・分子の自在配列と特性・機能	256	15	5.9%
	情報担体とその集積のための材料・デバイス・システム	63	10	15.9%
	信頼されるＡＩの基盤技術	74	11	14.9%
	植物分子の機能と制御	125	10	8.0%
	細胞の動的高次構造体	204	16	7.8%
合　　計		722	62	8.6%

ＡＣＴ－Ｘ

発足年度	研究領域	応募数	採択数	採択率
２０２０年度	ＡＩ活用で挑む学問の革新と創成	105	23	21.9%
	環境とバイオテクノロジー	56	22	39.3%
合　　計		161	45	28.0%

参考１

研究総括

ＣＲＥＳＴ

研究領域	氏名	所属機関・役職
原子・分子の自在配列・配向技術と分子システム機能	君塚 信夫	九州大学 大学院工学研究院　主幹教授
情報担体を活用した集積デバイス・システム	平本 俊郎	東京大学 生産技術研究所　教授
信頼されるＡＩシステムを支える基盤技術	相澤 彰子	情報・システム研究機構 国立情報学研究所 コンテンツ科学研究系　教授
細胞内現象の時空間ダイナミクス	遠藤 斗志也	京都産業大学 生命科学部　教授

さきがけ

研究領域	氏名	所属機関・役職
原子・分子の自在配列と特性・機能	西原 寛	東京理科大学 研究推進機構総合研究院　教授
情報担体とその集積のための材料・デバイス・システム	若林 整	東京工業大学 工学院　教授
信頼されるＡＩの基盤技術	有村 博紀	北海道大学 大学院情報科学研究院　教授
植物分子の機能と制御	西谷 和彦	神奈川大学 理学部　教授
細胞の動的高次構造体	野地 博行	東京大学 大学院工学系研究科　教授

ＡＣＴ－Ｘ

研究領域	氏名	所属機関・役職
ＡＩ活用で挑む学問の革新と創成	國吉 康夫	東京大学 大学院情報理工学系研究科　教授
環境とバイオテクノロジー	野村 暢彦	筑波大学 生命環境系　教授／微生物サステイナビリティ研究センター　副センター長

（令和２年１１月２４日現在）

参考２

選考の観点

＜ＣＲＥＳＴ＞

（１）ＣＲＥＳＴの各研究領域に共通の選考の基準は、以下の通りです。

ａ．戦略目標の達成に貢献するものであること。
ｂ．研究領域の趣旨に合致していること。
ｃ．独創的であり国際的に高く評価される基礎研究であって、今後の科学技術イノベーションに大きく寄与する卓越した成果が期待できること。
ｄ．以下の条件をいずれも満たしていること。
・研究提案者は、研究遂行のための研究実績を有していること。
・研究構想の実現に必要な手掛かりが得られていること。
・研究提案書において、①研究構想の背景（研究の必要性・重要性）、②研究提案者の実績（事実）、および③研究構想・計画の３者を区別しつつ、それぞれが明確に記述されていること。
・最適な研究実施体制であること。研究提案者がチーム全体を強力に統率して責任を負うとともに、主たる共同研究者を置く場合は研究提案者の研究構想実現のために必要不可欠であって、研究目的の達成に向けて大きく貢献できる十分な連携体制が構築されること。
・研究提案者の研究構想を実現する上で必要十分な研究費計画であること。
・研究提案者および主たる共同研究者が所属する研究機関は、当該研究分野に関する研究開発力等の技術基盤を有していること。

（２）上記のほか、研究領域ごとに独自の選考の観点・方針や運営の方針などを設定しました。

（３）研究費の「不合理な重複」ないし「過度の集中」に当たるかどうかも、選考の要素としました。

＜さきがけ＞

（１）さきがけの各研究領域に共通の選考の基準は、以下の通りです。

ａ．戦略目標の達成に貢献するものであること。
ｂ．研究領域の趣旨に合致していること。
ｃ．独創的・挑戦的かつ国際的に高水準の発展が見込まれる基礎研究であって、科学技術イノベーションの源泉となる先駆的な成果が期待できること。
ｄ．研究提案者は、提案研究の内容、研究姿勢や他の研究者との議論・相互触発の取り組みを通じて、当該さきがけ研究領域全体の発展ならびに関係研究分野の継続的な発展への貢献が期待できる存在であること。
ｅ．以下の条件をいずれも満たしていること。
・研究提案の独創性は、研究提案者本人の着想によるものであること。
・研究構想の実現に必要な手掛かりが得られていること。
・個人型研究として適切な実施規模であること。

（２）上記のほか、研究領域ごとに独自の選考の観点・方針や運営の方針などを設定しました。

（３）研究費の「不合理な重複」ないし「過度の集中」に当たるかどうかも、選考の要素としました。

＜ＡＣＴ－Ｘ＞

（１）ＡＣＴ－Ｘの各研究領域に共通の選考基準は、以下の通りです。

ａ．戦略目標の達成に貢献するものであること。
ｂ．研究領域の趣旨に合致していること。
ｃ．独創的・挑戦的なアイデアに基づく提案であり、国際的に高水準の発展が将来的に見込まれる基礎研究であって、科学技術イノベーションの創出につながる新しい価値の創造が期待できること。
ｄ．研究提案者は、提案研究の内容、研究姿勢や他の研究者との議論・相互触発の取り組みを通じて、当該ＡＣＴ－Ｘ研究領域全体の発展ならびに関係研究分野の継続的な発展への貢献が期待できる存在であること。
ｅ．以下の条件をいずれも満たしていること。
・研究提案の独創性は、研究提案者本人の着想によるものであること。
・個人型研究として適切な実施規模であること。

（２）上記のほか、研究領域ごとに独自の選考の観点・方針や運営の方針などを設定しました。

（３）研究費の「不合理な重複」ないし「過度の集中」に当たるかどうかも、選考の要素としました。